

[遺伝資源の収集・評価・保存]
早生系エダマメ 9 品種の栽植密度と収量

野口 貴・荒木俊光・海保富士男
(園芸技術科)

【要 約】早生系エダマメの収量は、マルチの規格9315および9215を用いた密植栽培(14,300
~9,500株/10a)で多くなる。ただし、密植になるほど1粒莢の割合が多くなる。

【目 的】

都内のエダマメ生産はトンネルや露地栽培を中心とし、極早生から中早生まで多様な品
種が用いられているが、それらの最適栽植密度については不明な点が多い。そこで、早生
系エダマメ 9 品種を供試し、栽植密度、播種期と莢収量との関係を明らかにする。

【方 法】

エダマメは「黒玉すだれ」以下 9 品種を用い、2008年 3 月 13 日および 4 月 11 日に 200 穴、
5 月 12 日に 128 穴のセルトレイへ播種し、それぞれ初生葉展開期にマルチ敷設圃場へ定植
した。ベッド幅 70cm、通路を 70cm とし、試験区は、株間 15cm、3 条千鳥植えの 9315 区 (栽
植密度 14,300 株/10 a)、株間 15cm、2 条植えの 9215 区 (同 9,500 株/10 a)、株間 30cm、3
条千鳥植えの 9330 区 (同 7,100 株)、株間 24cm、2 条千鳥植えの 9224 区 (同 6,000 株)、株
間 27cm、2 条千鳥植えの 9227 区 (同 5,300 株)、株間 30cm、2 条千鳥植えの 9330 区 (同 4,800
株)の 6 区とした。3 月播種では定植後から 4 月 22 日までタフベル 4000N とユーラックカン
キ 2 号、4 月 30 日まではタフベルでトンネル被覆した。4 月播種では 5 月 22 日までタフベ
ルで被覆した。施肥量は窒素、リン酸、カリを成分量でそれぞれ 5、10、5 kg/10 a とした。

【成果の概要】

- 1) 「黒玉すだれ」の 10 a あたり莢収量は、9215 (3 月播種) または 9315 (4、5 月播種)
で多かった(図 1)。なお、9315~9215 では 1 粒莢が多かった。
- 2) 「サッポロミドリ」は 5 月播種で収量が多く、栽植密度は 9215 (3、4 月播種) また
は 9315 (5 月播種) が優れた(図 1)。
- 3) 「大雪みどり」の収量は 3、4 月播種では 9215、5 月播種では 9315 で多かった(図 1)。
- 4) 「栄錦」の収量は、5 月播種で多く、栽植密度は 9315 または 9215 が優れた。なお、2、
3 粒莢に限ると、4 月の 9330~9230、5 月の 9215~9230 の区間で収量に大差はなかった。
- 5) 「玉すだれ 2 号」の収量は、3 月播種では 9315 および 9215 で、4 および 5 月播種では
9315 で多かった(図 2)。なお、5 月播種の 9315 では 1 粒莢が多かった。
- 6) 「美瑛」の 5 月播種では 9315 で収量が多く、9215~9230 間では大差がなかった(図 2)。
- 7) 「サヤムスメ」の収量は、5 月播種で多く、9315 が優れた(図 3)。
- 8) 「夏の語らい」の収量は、5 月播種で多く、栽植密度は 9215 または 9315 が優れた(図 3)。
- 9) 「湯あがり娘」の収量は、9215 (3 月播種) または 9315 (4、5 月播種) で多かった
(図 3)。他の品種と比較して、播種時期による収量の差が小さかった。
- 10) 以上、早生系エダマメの収量は、品種や播種時期にもよるが、9215 または 9315 で多く、
9330~9220 間では比較的差が小さい。なお、9315~9215 では 1 粒莢が多くなる。

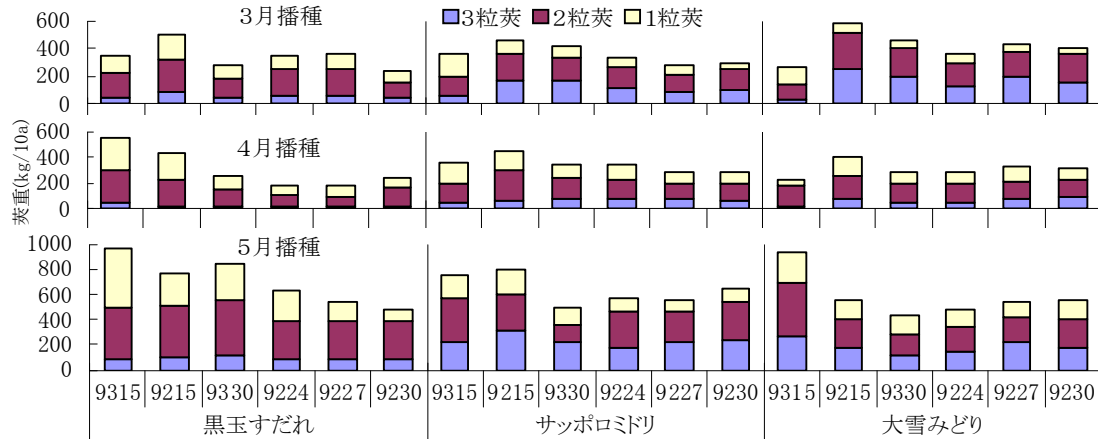


図1 黒玉すだれ, サッポロロドリ, 大雪みどりの栽植密度と莢収量(上:3月播種, 中:4月播種, 下:5月播種)
 グラフ横軸) 9315:株間15cm3条植え(14,300株/10a), 9215:株間15cm2条植え(同9,500株), 9330:株間30cm3条植え(同7,100株), 9224:株間24cm2条植え(同6,000株), 9227:株間27cm2条植え(同5,300株), 9230:株間30cm2条植え(同4,800株), 以下各図とも同様.

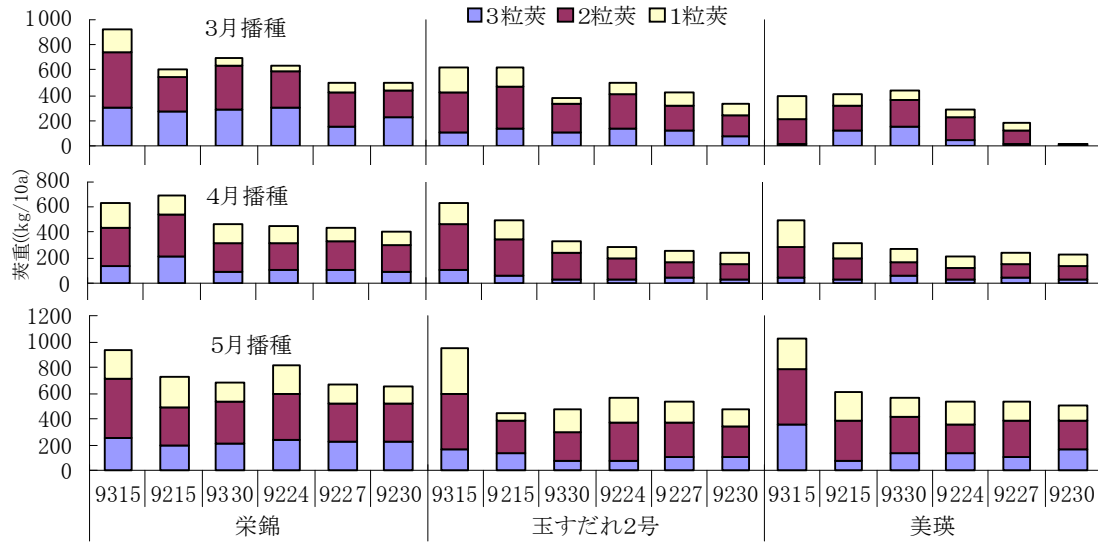


図2 栄錦, 玉すだれ2号, 美瑛の栽植密度と莢収量(上:3月播種, 中:4月播種, 下:5月播種)

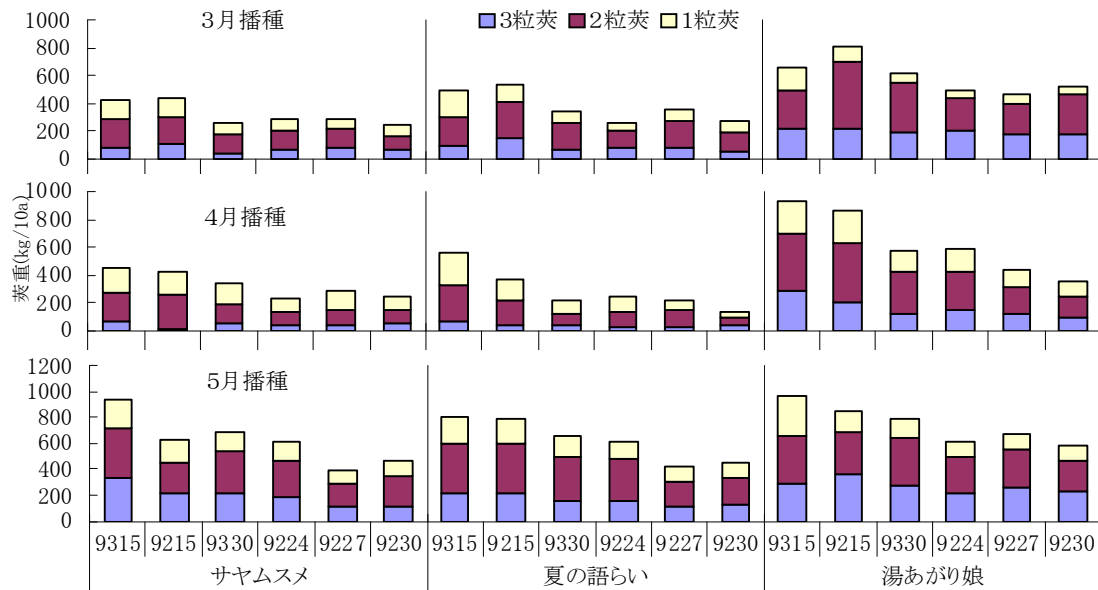


図3 サヤムスメ, 夏の語らい, 湯上がり娘の栽植密度と莢収量(上:3月播種, 中:4月播種, 下:5月播種)